

取り扱い説明書

MARS LINER

マルスライナー 960 A2

平行定規 (各部の名称)

A スチールプレート

用紙を製図板に固定するためのプレートです。

B スケール

上下に移動して線を描くときに用います。

C スケール基線調整レバー

スケールと用紙とを平行に合わせるためのレバー。

D ペンシル受け

シャープペンシルや消しゴム等の筆記具を収納することができ、ゴミを落とせるスリット付き。

E フローティング調整ネジ

製図板とスケールとの間隔を調整するためのネジ。

F スケール固定ネジ

スケールの上下の動きを固定 (ブレーキ) したり、固定を解除したりするためのツマミ付きのネジ。

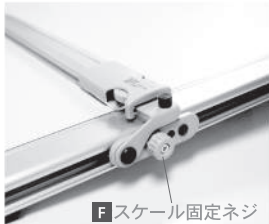
G 傾斜角度調整ネジ

スケールの傾斜角度を大きくする時のみ使用。ご使用方法は下記説明をご参照ください。

(注) 作図時は必ずネジをしめてください。



使い初めに



F スケール固定ネジ

1

スケール右横側面の **F** (スケール固定ネジ) をゆるめ、スケールが上下に動くようにします。



E フローティング調整ネジ

2

左右の **E** (フローティング調整ネジ) をまわして、スケールで用紙を傷めないように製図板とスケールの間隔を微調整します。



C スケール基線調整レバー

3

スケール左横側面の **C** (スケール基線調整レバー) を奥側に倒し (左にまわす)、用紙に合わせてスケールを平行調整してください。
再び **C** レバーを手前に倒し (右にまわす)、スケールを固定します。
以上の操作により準備が終了し作図が可能となります。

製図板の傾斜調整



製図が楽な姿勢でおこなえるように製図板の傾斜角度を3段階に変えられます。
製図板裏面の傾斜スタンドを“立てる”または“倒す”ことにより傾斜を9度/6度/傾斜なしに調整できます。

スケールの動きが悪くなった場合



I ローラー固定ネジ

J プラスチックカバーネジ

製図板裏面のコーナーにある **I** (ローラー固定ネジ) の2本をゆるめ、**J** (プラスチックカバーネジ) で調整してください。

I と **J** のネジは各コーナーにあり、一箇所でも不十分な場合は複数箇所を調整してください。

・スケールの上下への動きが重い場合は **J** のネジを左に回しながら調整してください。

・軽すぎる場合は **J** のネジを右にまわしながら調整してください。

(注) **J** のネジを左にまわしすぎるとワイヤーがゆるみ、スケールがガタついたりワイヤーが外れる事がありますのでご注意ください。

製図板のクリーニング

製図板の汚れを落とす場合は必ず薄めた中性洗剤をご使用ください。
シンナー、ベンジン等は本体の部品が溶解しますので使用しないでください。

磁気製品を置かないでください

製図板表面にはマグネットシートを使用していますので、携帯電話、アナログ時計、フロッピーディスク、磁気カード、磁気テープ、乗車券類は近づけないでください。
記憶内容が破壊される恐れがあります。

スケールの傾斜角度を大きくする時



H 傾斜防止ネジ

G 傾斜角度調整ネジ

スケールは通常5度まで傾斜することができますが、それ以上の角度を必要とする場合は次の要領でおこなってください。

- (1) スケール裏側の **H** (傾斜防止ネジ) を左右とも取り外します。
- (2) スケール表側の **G** (傾斜角度調整ネジ) を左右両方ともゆるめます。
- (3) スケール左横側面の **C** (スケール基線調整レバー) を奥側に倒し、希望の角度に合わせてください。
- (4) 角度を合わせた後、**G** のネジを左右両方ともしっかり締めて **C** のレバーを手前に倒し固定してください。
この際の角度は最大約16度まで傾斜する事ができます。

(注) 建築士試験会場で **H** (傾斜防止ネジ) を外して傾斜を使用しますと、使用基準を満たさず失格となりますのでご注意ください。

※製品の修理等に関しましては、お買い求めの販売店にご連絡ください。

2013年4月1日改訂